参考資料2

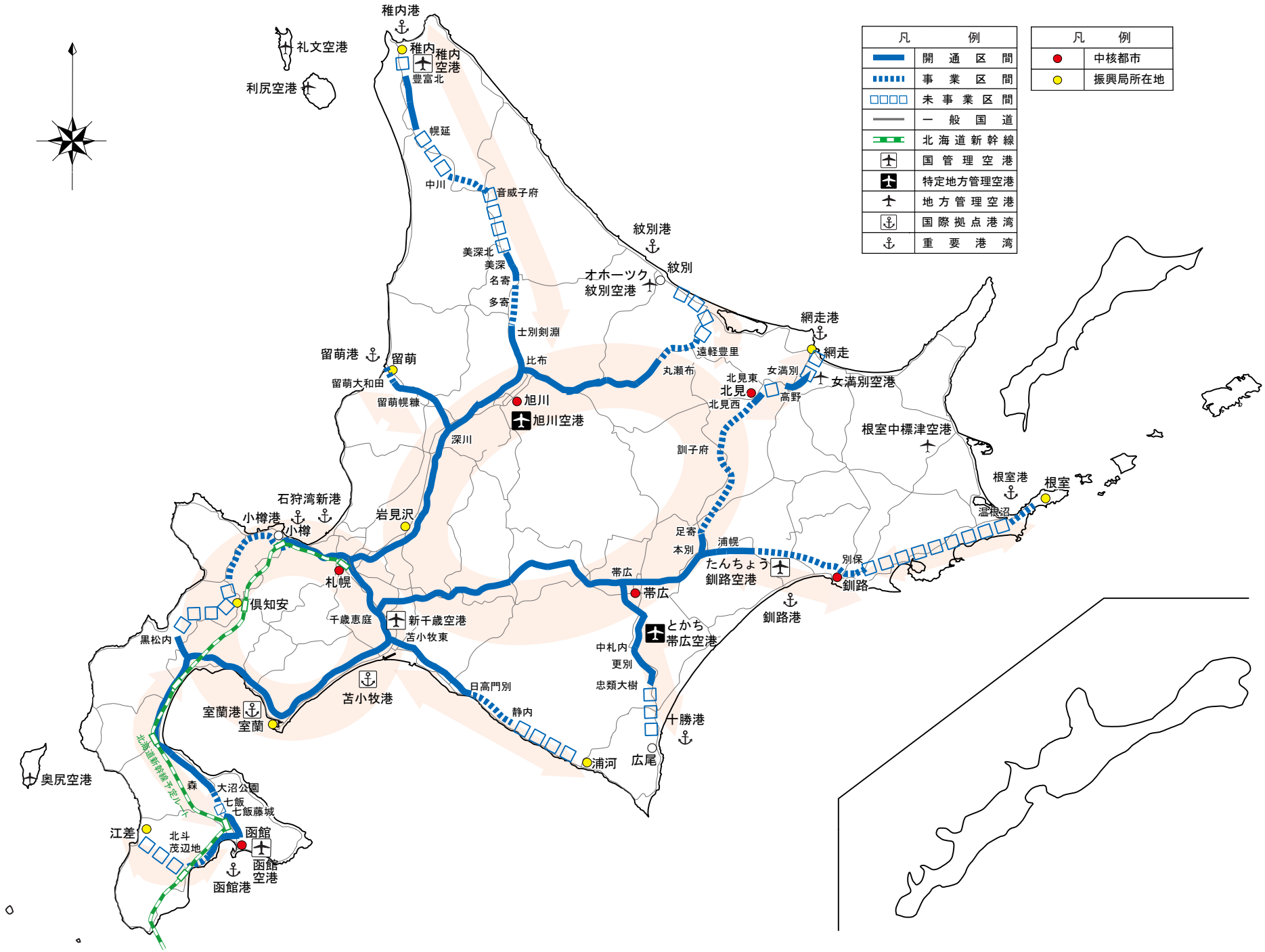
北海道における高規格幹線道路の主なストック効果

平成２７年８月６日

国土交通省　北海道開発局

北海道のネットワーク

国土交通省



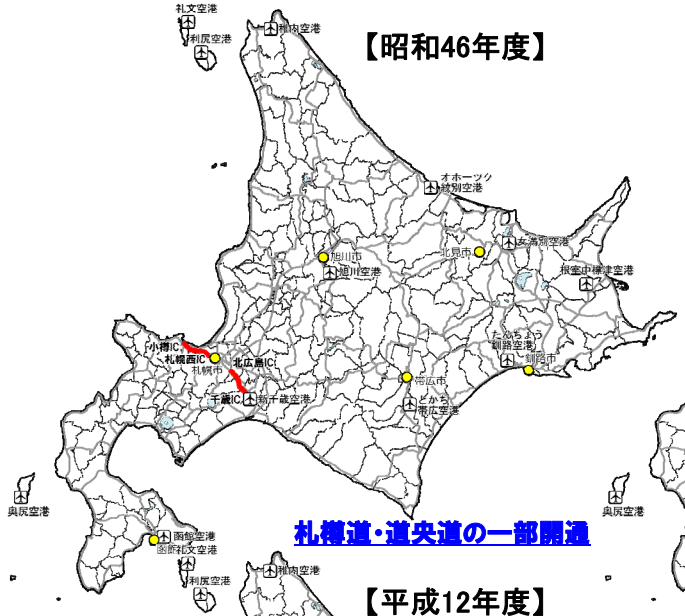
■. 高規格幹線道路網の変遷と広域ネットワーク効果

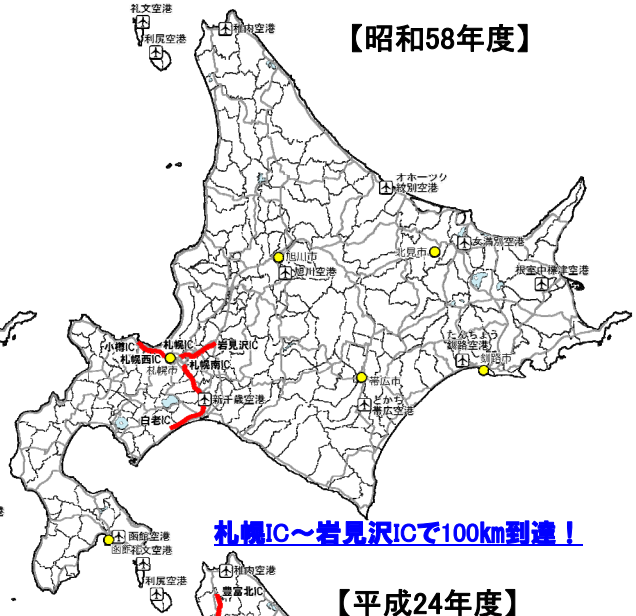
高規格幹線道路網の変遷

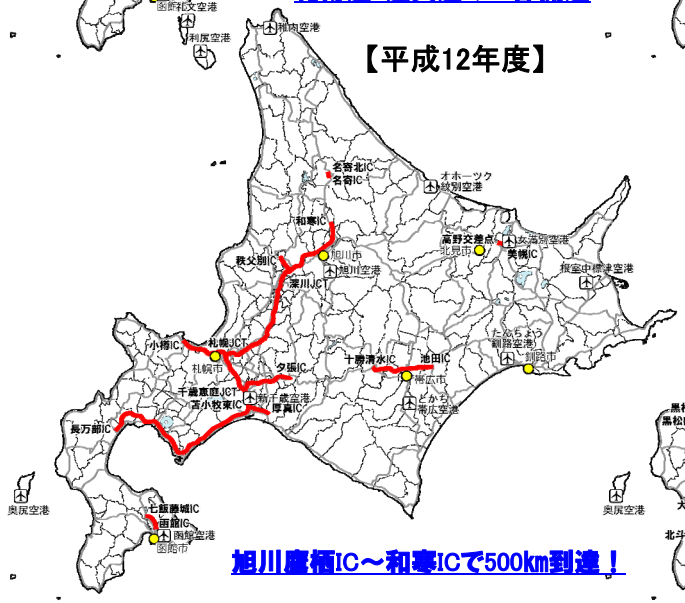
国土交通省

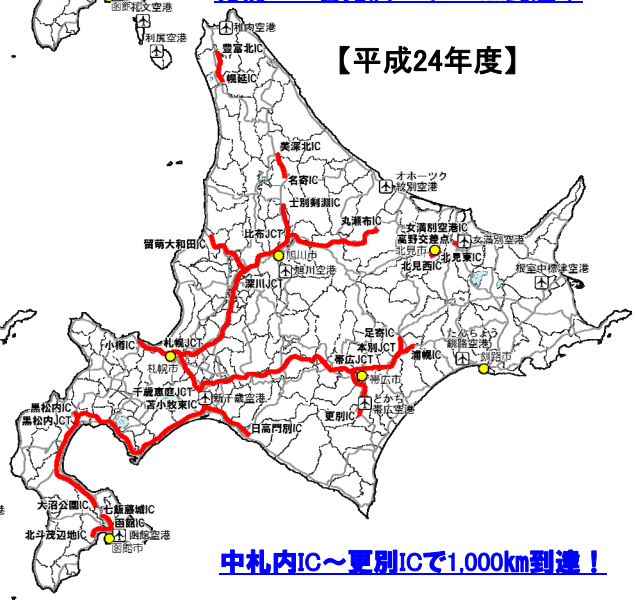
○昭和４２年度から整備を始め、昭和４６年度に札樽道（小樽IC～札幌西IC：延長24.3km）および道央道（千歳IC～北広島IC：延長22.9km）が初めて開通
○平成２３年度の道東道の開通により帯広と札幌が結ばれるなど、都市間ネットワークが構築
○平成２４年度には中札内IC～更別ICの開通により供用延長が１，０００kmに到達

▼高規格幹線道路の整備状況

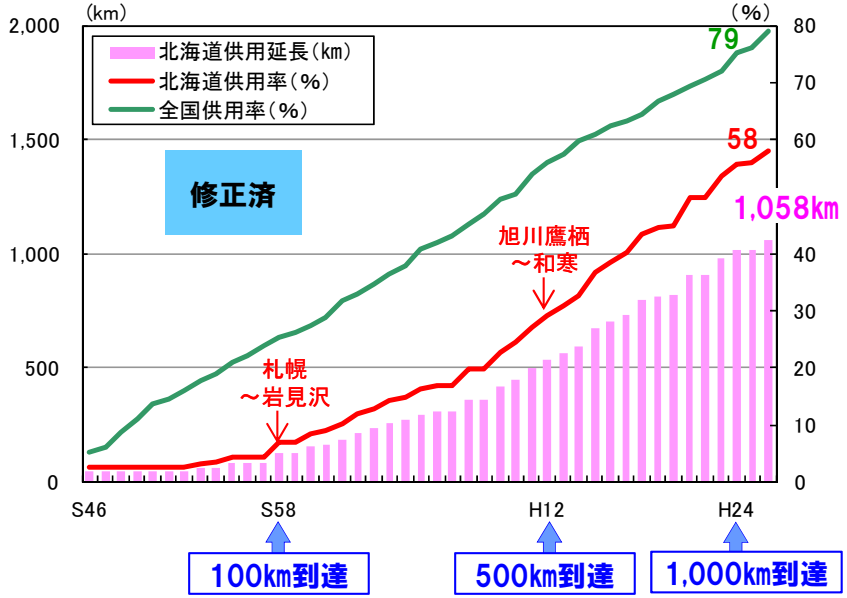








▼供用延長及び供用率の推移



資料：北海道供用延長：道路現況調書、北海道供用率：道路現況調書より算出、
全国供用率：道路統計年報2013より算出

【昭和46年度】
●道央道
（千歳IC～北広島IC）開通

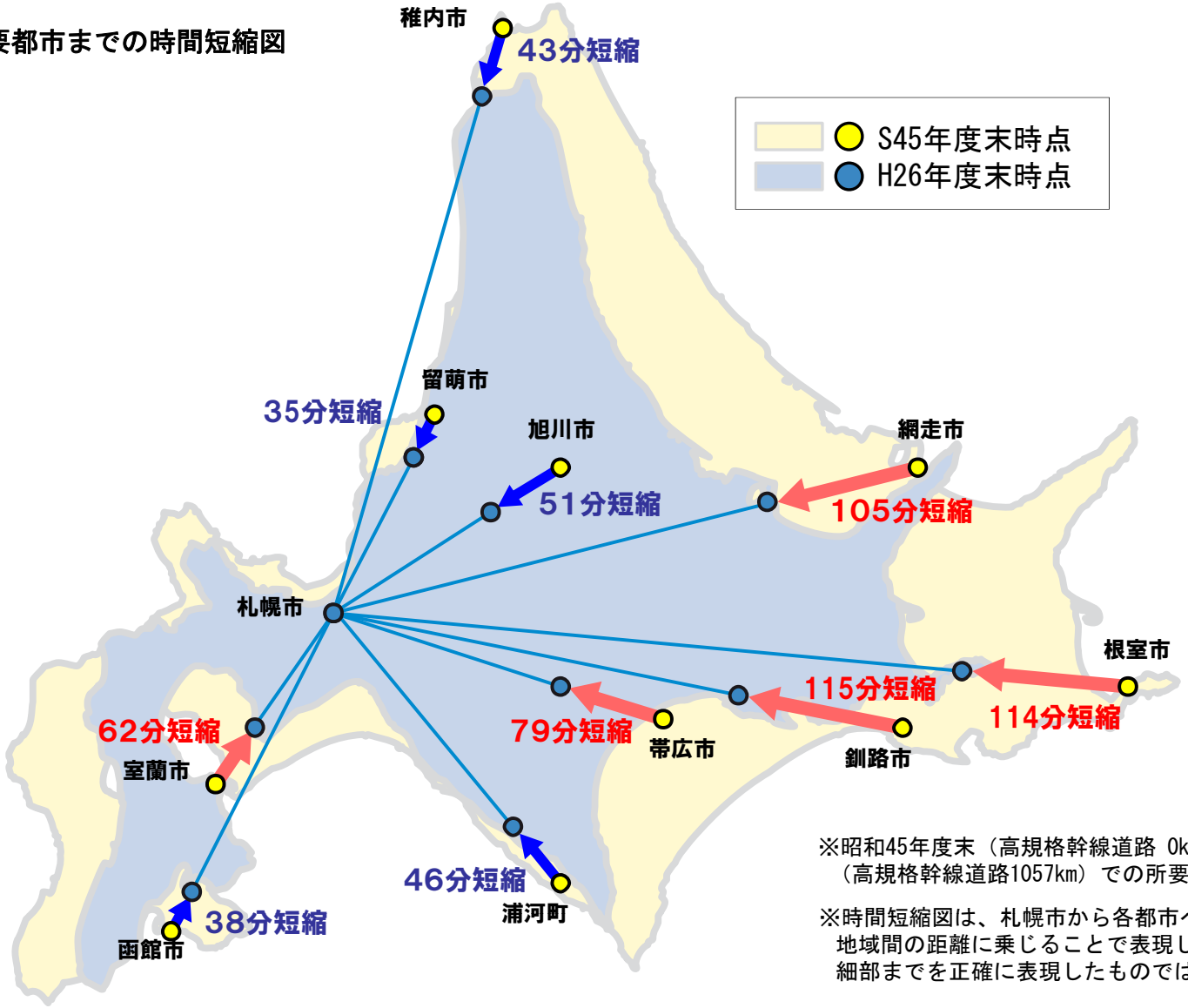
【平成24年度（最近の開通）】
●道央道
（大沼公園IC～森IC）開通

都市間移動時間の短縮

国土交通省

○これまでの開通により北海道の中心都市札幌と道内主要都市との所要時間が短縮
○特に道東方面の時間短縮が顕著で、札幌から根室間や札幌から網走間が約2時間短縮

▼札幌市から主要都市までの時間短縮図



※昭和45年度末（高規格幹線道路 0km）と平成26年度末（高規格幹線道路1057km）での所要時間の比較。

※時間短縮図は、札幌市から各都市への所要時間の短縮率を地域間の距離に乗じることで表現したものであり、地域間の細部までを正確に表現したものではない。

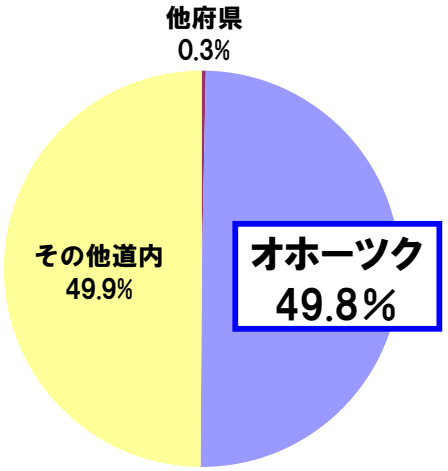
資料：道路交通センサス

【物流】:高規格道路開通による効果(1)

国土交通省

○オホーツクは全国随一のホタテの生産基地であり、漁獲量は全国シェアの約5割に達する
○以前は消費地まで遠く、品質の高さを活かせなかったオホーツク産のホタテが、輸送時間の短縮により、新千歳空港当日便による出荷が可能となり、関東などの消費地へ提供
○築地市場における道産ホタテのシェアは約5割を占め、大消費地への安定供給を支援

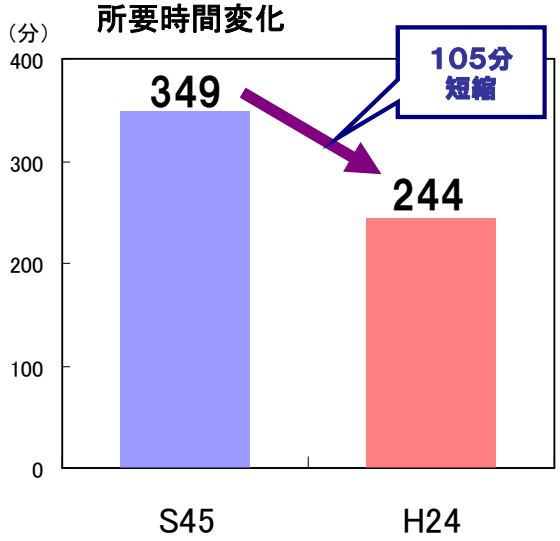
▼H25ホタテ漁獲量全国シェア



資料:漁業・養殖業生産統計(海面漁業)
※天然養殖

▼北海道における生鮮ホタテの流動状況

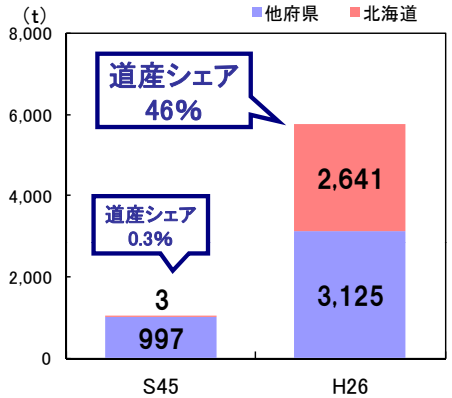
▼湧別町から新千歳空港への所要時間変化



資料:道路交通センサス

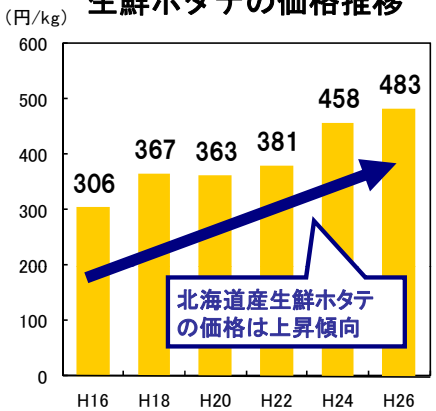
▼ホタテ空輸出荷スケジュールの変化

▼築地市場における道産ホタテ取扱量



資料:東京都中央卸売市場年報

▼築地市場における道産生鮮ホタテの価格推移



資料:東京都中央卸売市場年報

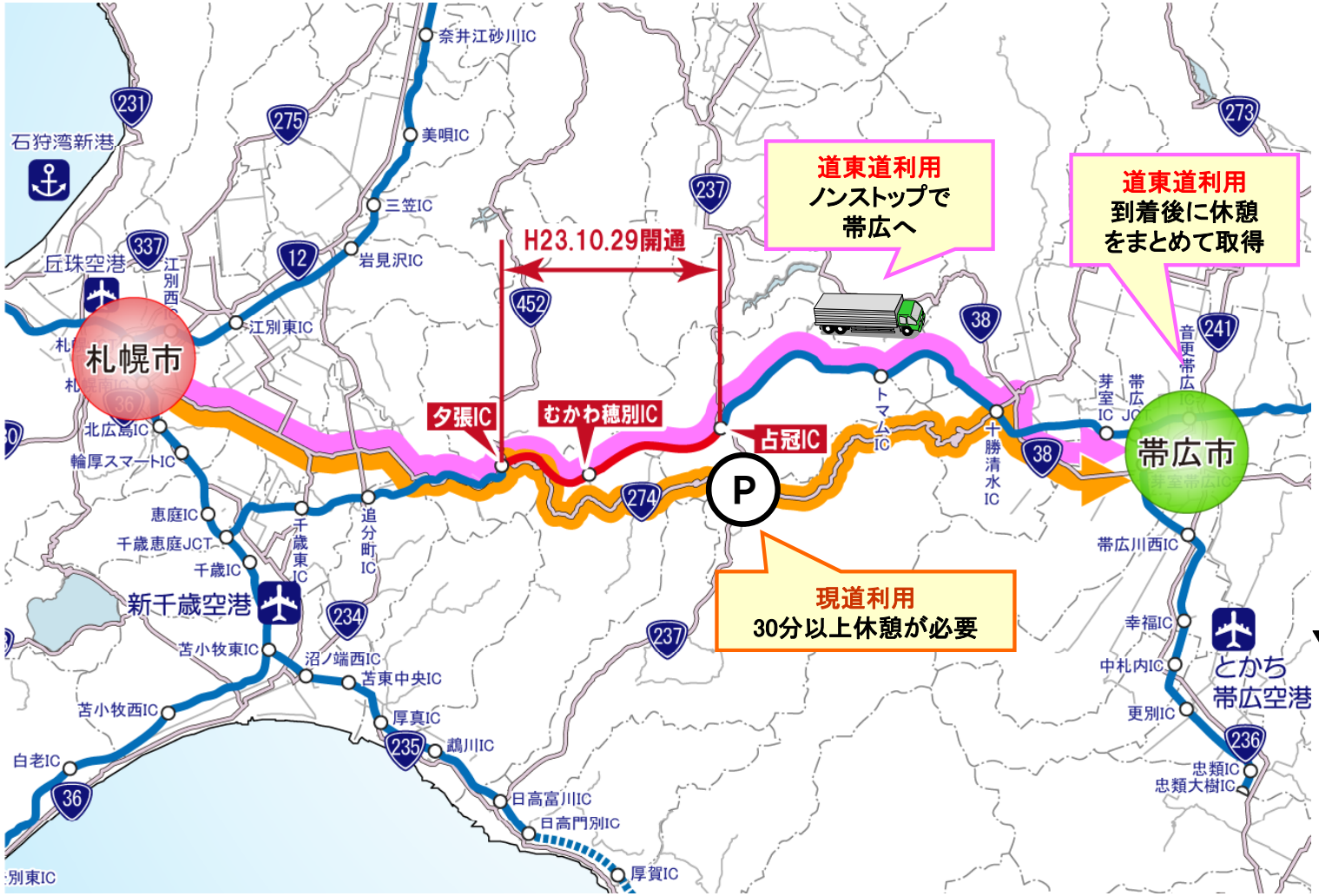
【物流】:高規格道路開通による効果(2)

国土交通省

〈輸送時間短縮による効率化〉

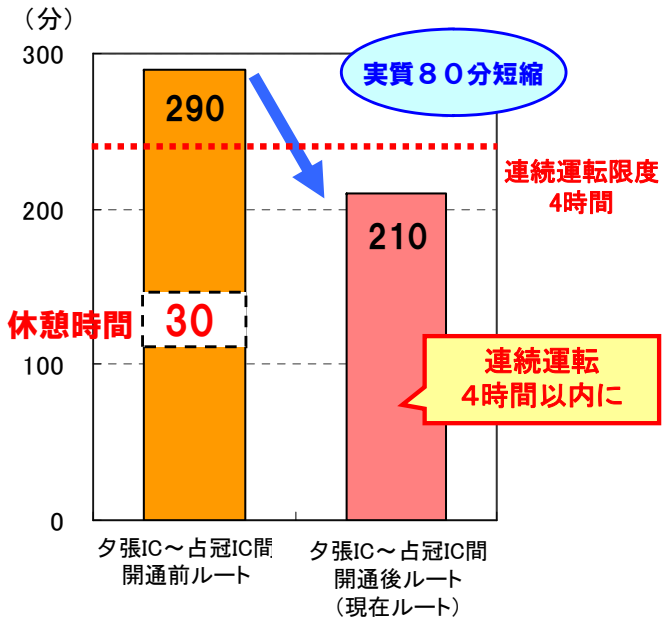
○道東道の開通により、札幌～帯広間がドライバーの連続運転の制限時間である4時間以内で到着可能に
○輸送時間の短縮により、ドライバーの負担が軽減し安全性が向上するとともに物流が効率化

▼ドライバーの休憩取得の状況



資料:札幌市内運送会社ヒアリング

▼休憩時間を考慮した所要時間(札幌～帯広間)



資料:H22道路交通センサス

▼トラック運転者の連続運転時間の上限

・労働大臣告示「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示)
→トラック運転者の連続運転時間は4時間

出典:厚生労働省HP
(http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/kantoku/040330-10.html)

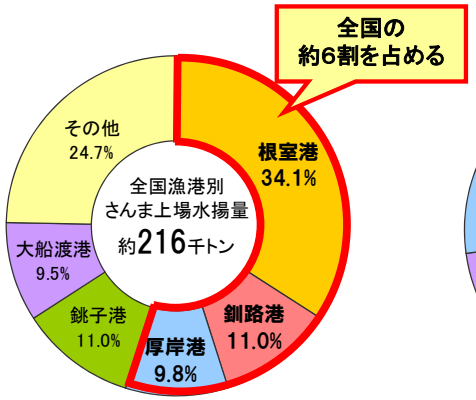
【物流】:今後の高規格道路整備により期待される効果（1）

国土交通省

〈水産品の道外への出荷支援①〉

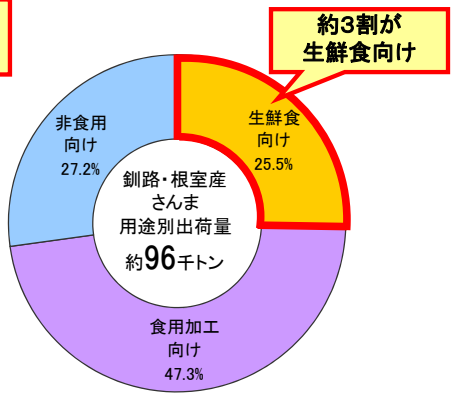
○根室・釧路地域のさんまは全国水揚量の約6割を占め、全国各地へ出荷されているが、道東道浦幌ー釧路間の整備により、水産品の鮮度維持に向けた速達性及び安定性の高い輸送ルートの確保が期待され、ブランド魚種の品質確保や地域経済の好循環化が期待される

▼全国漁港別さんま水揚量



資料：産地水産物流通調査（H24）

▼釧路・根室産さんまの用途別出荷割合

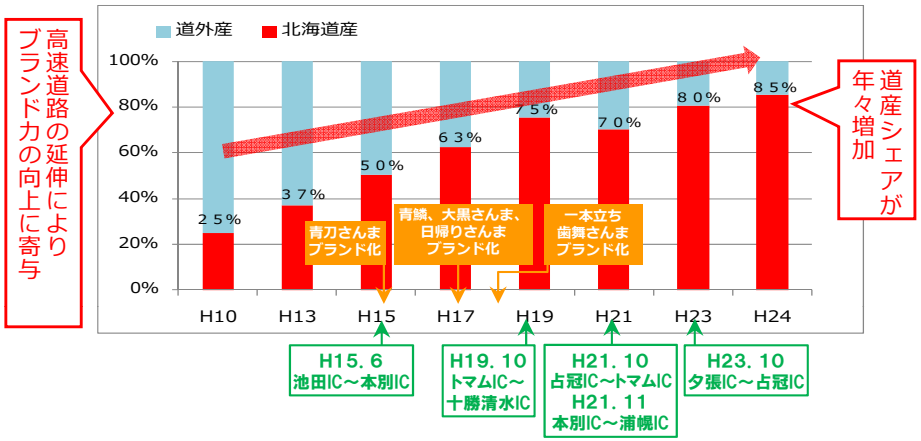


資料：産地水産物流通調査（H24）

▼さんまの主な輸送と水揚量

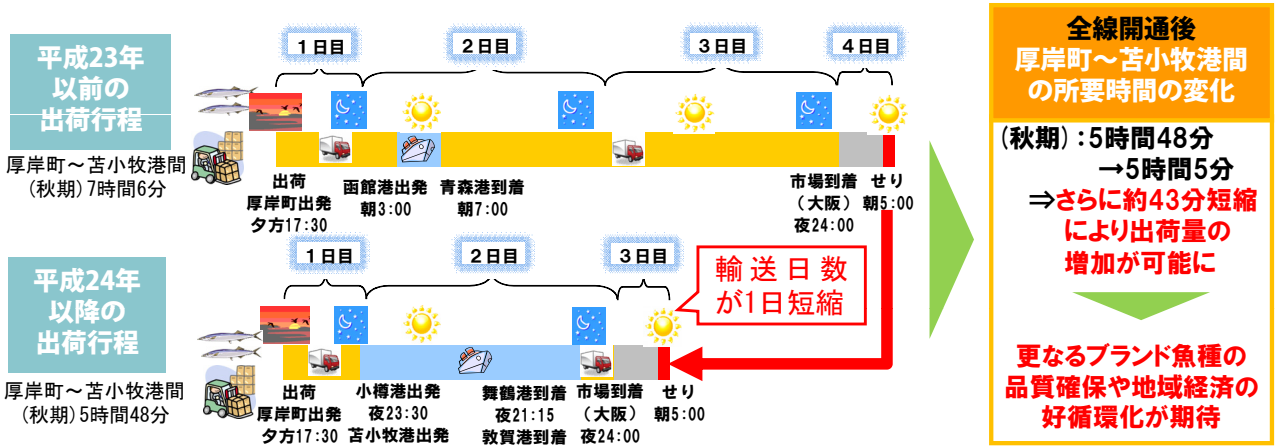
資料：道路台帳、北海道水産現勢（H24）

▼大阪市中央卸売市場の生鮮さんま取扱数量



資料：大阪市中央卸売市場年報

▼厚岸町ブランドさんま（大黒さんま）の関西向け輸送の日数変化



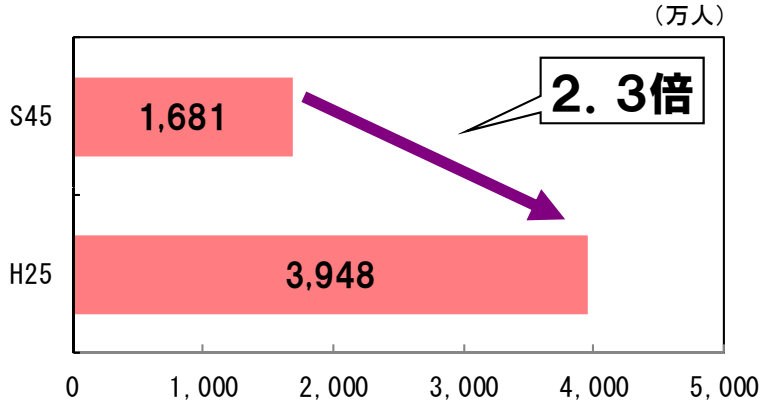
資料：ヒアリング結果、H22道路交通センサス

【観光】:高規格道路開通による効果（1）

国土交通省

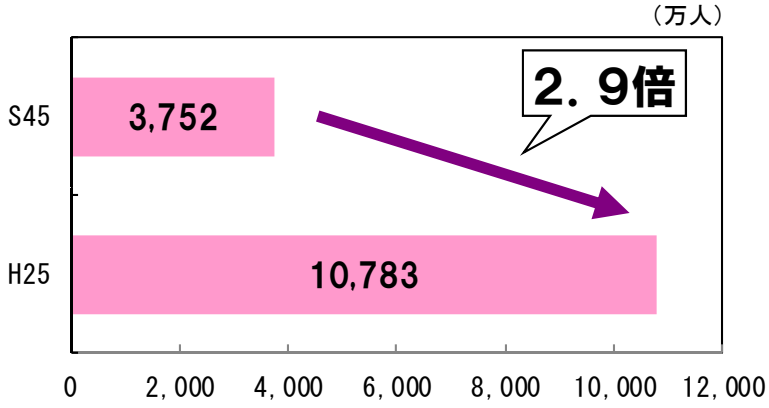
○昭和45年以降の約40年間で、北海道への道外からの観光入り込み客数は2．3倍、日帰り観光入り込み客数は2．9倍に増加
○市町村別に観光入り込み客数は、高規格道路沿線の地域で増加傾向

▼北海道・観光入り込み客数の増加（道外）



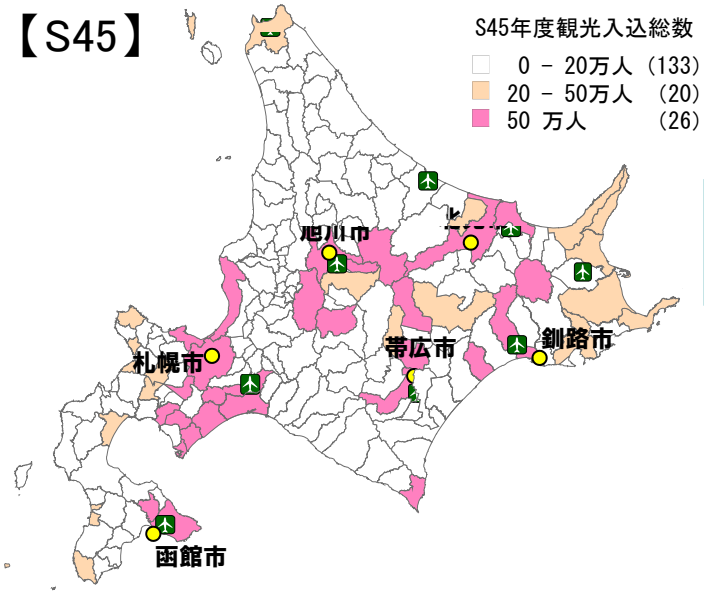
資料:観光入込客数調査報告書（北海道経済部観光局）

▼北海道・観光入り込み客数の増加（日帰）

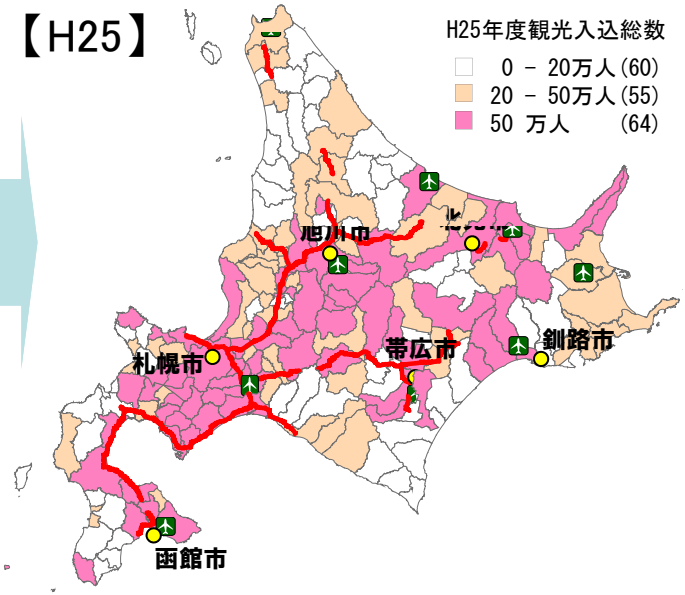


資料:観光入込客数調査報告書（北海道経済部観光局）

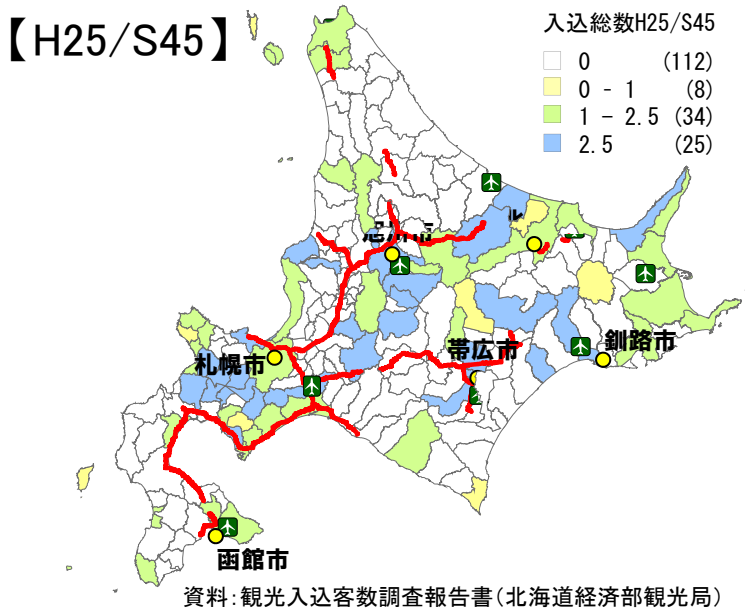
▼自治体別観光入り込み客数



▼自治体別観光入り込み客数



▼自治体別観光入り込み客数伸び率



資料:観光入込客数調査報告書（北海道経済部観光局）

【観光】:高規格道路開通による効果(2)

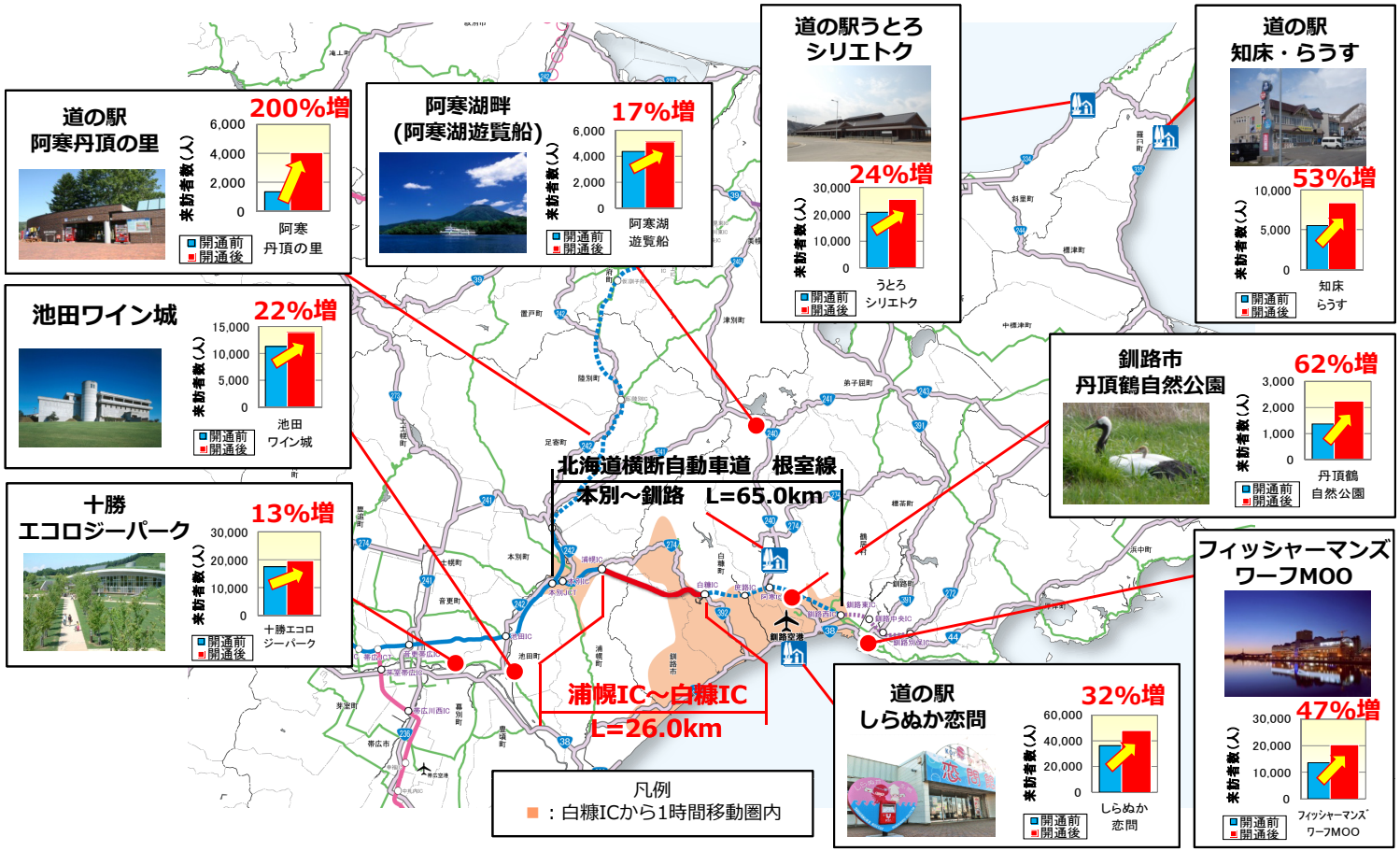
国土交通省

〈観光地の活性化、来訪者の広域化〉

○十勝圏･釧路根室圏の各施設におけるGW期間中の入込客数は、H26年度同時期と比較し、H27年度には大きく増加しており、周遊観光が活性化

○札幌圏･帯広圏からの来訪者が増加しており、特に帯広方面からの来訪者は昨年同時期の4.5倍となるなど、観光行動圏が広域化

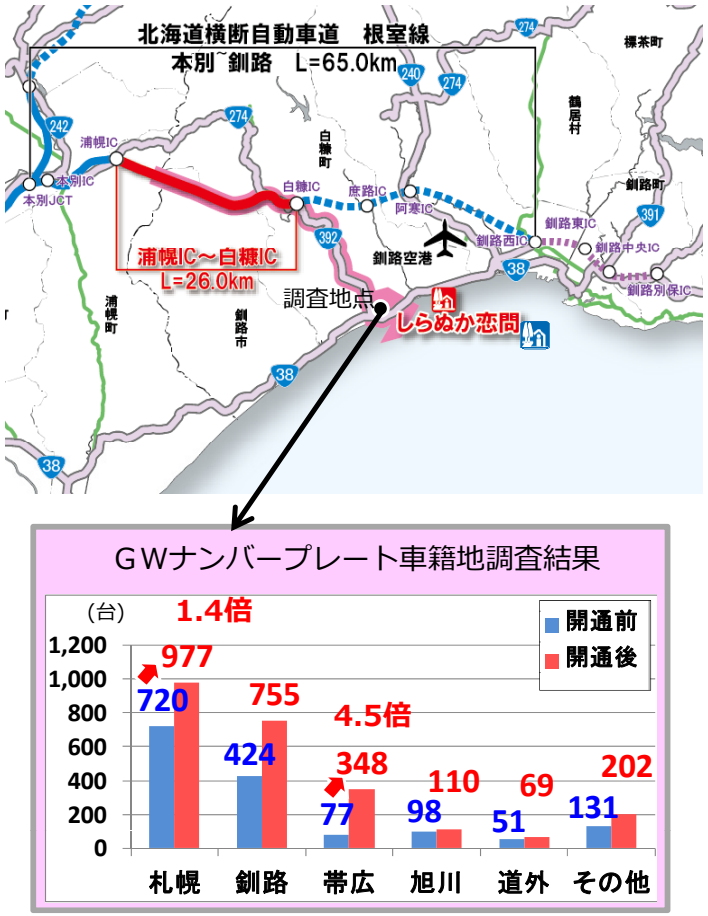
▼釧路圏の観光地の入込増加



※開通前:H26.5.1～6
開通後:H27.5.1～6

資料: 釧路観光コンベンション協会、釧路市阿寒行政センター、道の駅阿寒丹頂の里、白糠町経済部経済課、道の駅うとろ･シリエトク、道の駅知床･らうす、音更町商工観光課、池田町ブドウ･ブドウ酒研究所営業課

▼札幌・帯広圏からの来訪者増加



※釧路開発建設部調べ(大型車は除く)
開通前:H26.5.3(土･祝)開通後:H27.5.3(日･祝)

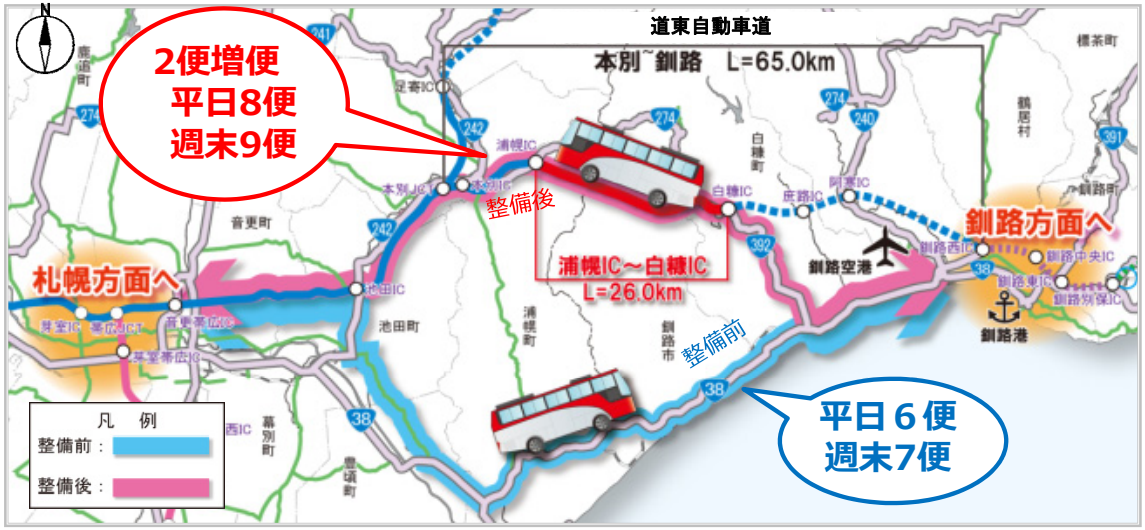
【観光】:高規格道路開通による効果(3)

国土交通省

〈都市間バス運行の変化〉

○道東道浦幌～白糠間の開通により、札幌～釧路間の高速バスの運行時間が15分短縮し、また1日2往復増便されたことにより利便性が向上

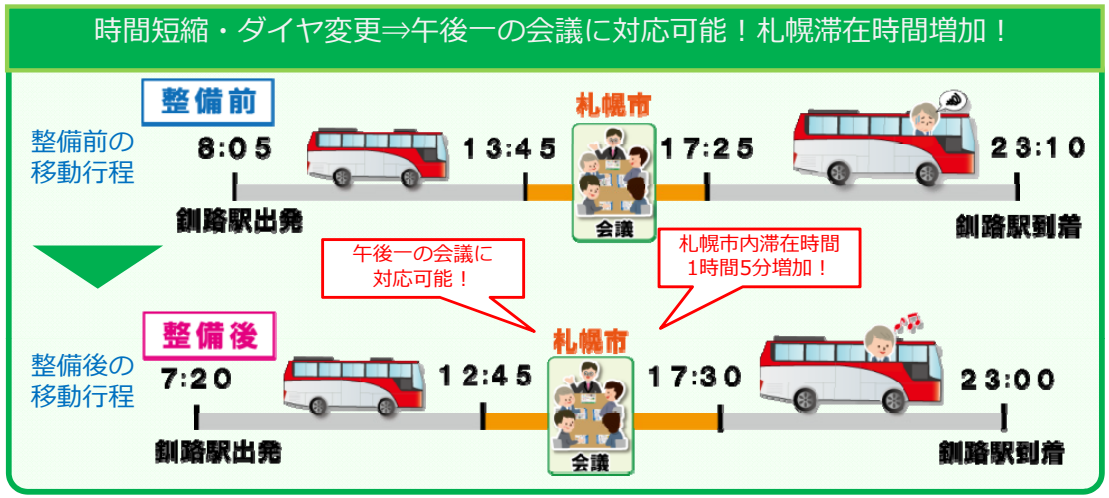
▼都市間バスの運行ルートの変化



平成27年3月30日より増便！
高速利用・ダイヤ変更により札幌
到着時間が早まりました！

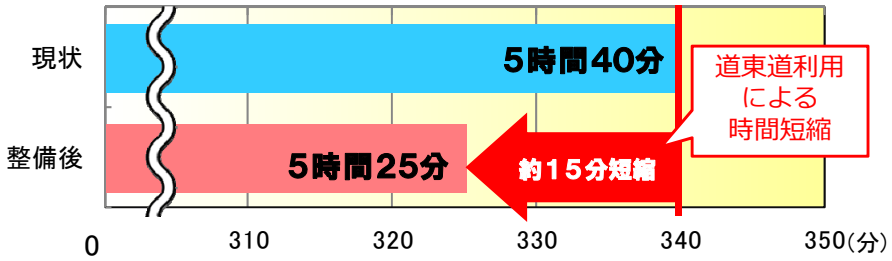
資料:高速バス事業者ヒアリング結果

▼ダイヤ変更による移動時間の変化



資料:高速バス事業者ヒアリング結果

▼都市間バスの所要時間の変化（釧路⇒札幌）



資料:高速バス事業者ヒアリング結果

【観光】:高規格道路開通による効果(4)

国土交通省

〈観光客を呼び込む地域の新たな取り組み〉

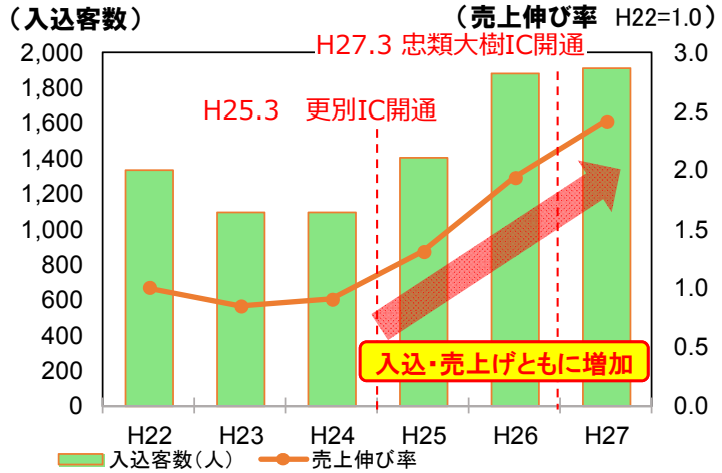
○更別IC開通以降、帯広・広尾自動車道の沿線施設へ訪れる観光客は増加傾向にあり、忠類大樹IC開通によってさらに増加
○道の駅、直売所、飲食店などでは売上げも増加、地域では開通をきっかけとした活気にあふれている

▼地域の取り組み状況

道の駅コスモール大樹

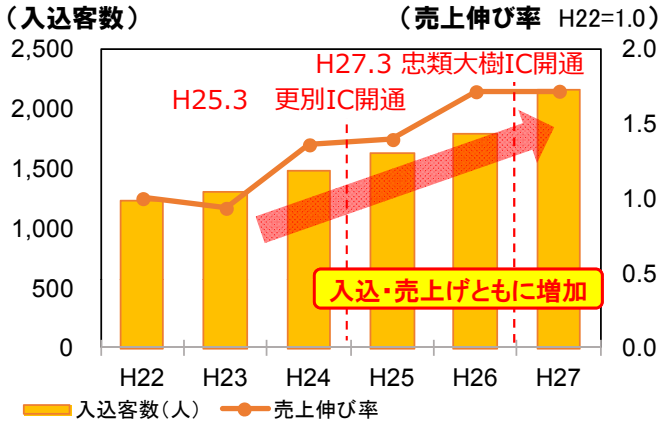
大樹町
グルメ大図鑑

▼菜の館ベジタ入込状況と販売実績（GW）



資料：忠類農協

▼道の駅コスモール大樹入込状況（4月）



資料：大樹町商工会

【観光】:今後の高規格道路整備により期待される効果

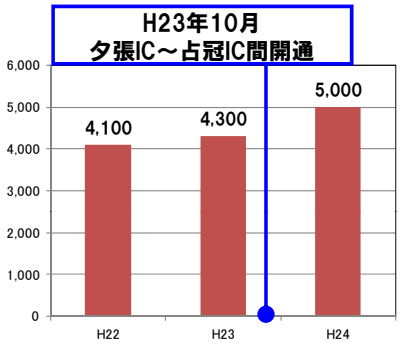
国土交通省

〈バスツアーの利便性向上〉

○北海道は豊富な観光資源を有し、これらをめぐる様々なバスツアーが実施されている
○道東道浦幌～釧路間や帯広広尾自動車道大樹～広尾間等の整備により所要時間が短縮されると、立ち寄り先や滞在時間の増加、新たな企画商品の検討等が可能となり、ツアーの魅力の向上が期待される

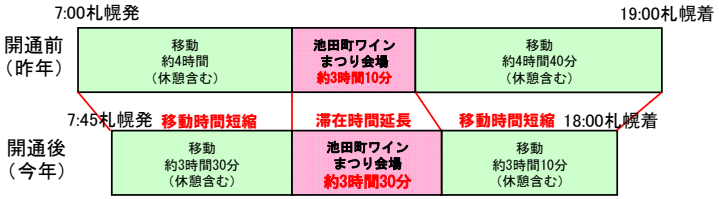
▼道央⇒道東間の日帰りバスツアーの例

▼秋のワイン祭り入込み客数（前売券販売数）の推移



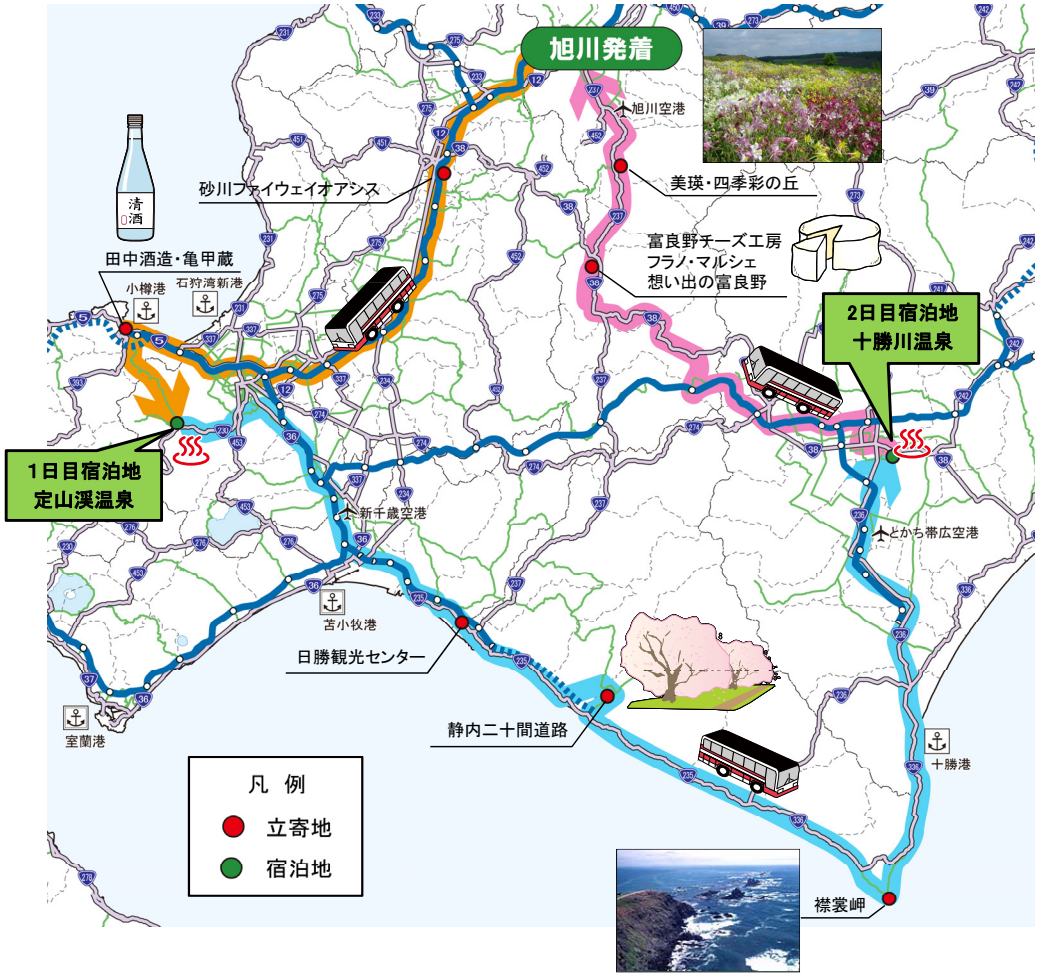
資料:池田町産業振興課

▼池田町ワイン祭りツアー(日帰り)の タイムスケジュールの変化の例



資料:旅行代理店ヒアリング

▼道央・日高・十勝・空知を周遊する観光周遊バスツアーの例



資料: 旅行代理店ヒアリング

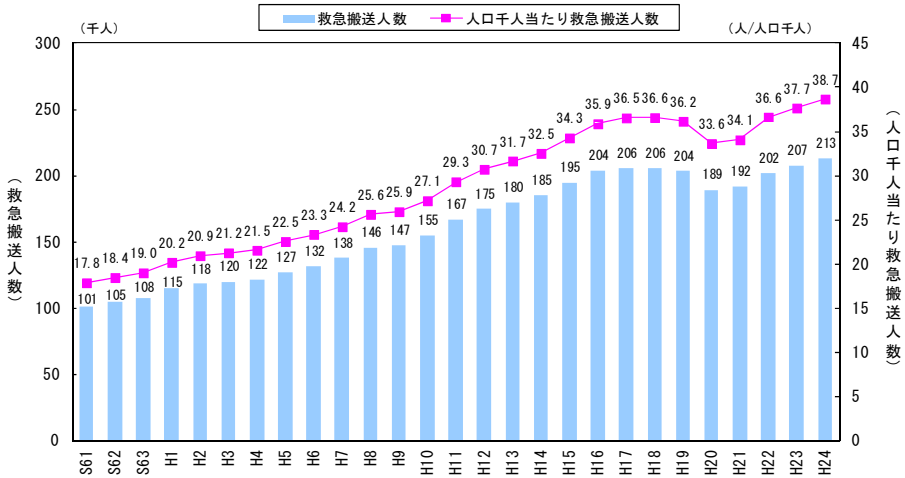
【医療】:高規格道路開通による効果（1）

国土交通省

〈救急搬送のアクセス性向上〉

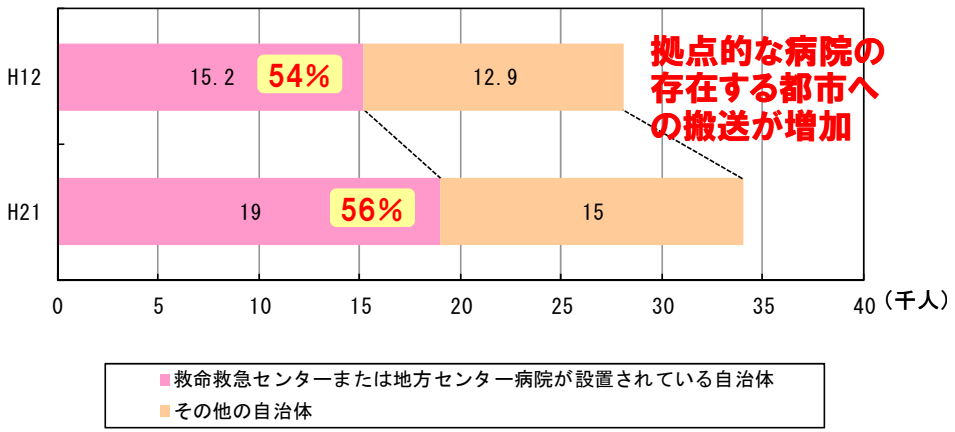
○北海道における救急搬送人数は過去20年で約2倍に増加
○救命救急センターや地方センター病院への救急搬送が増加し、中心都市へ大きく依存
○高規格幹線道路の整備により、救命救急センターや地方センター病院へのアクセス性が向上

▼北海道の救急搬送人数



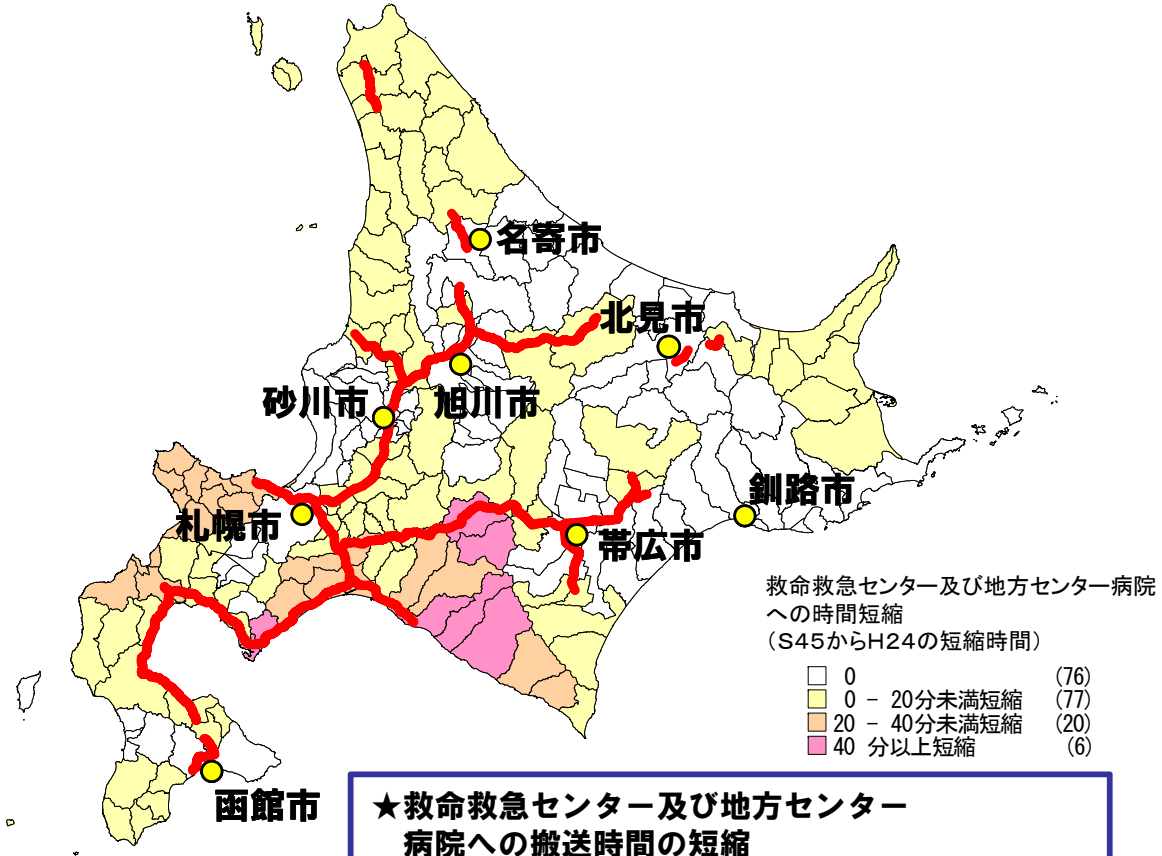
資料:救急救助年報（北海道）

▼搬送先別搬送人数（自市町村外への搬送のみ）



資料:北海道開発局調べ

▼救命救急センター及び地方センター病院への短縮時間（S45,H24比較）



★救命救急センター及び地方センター病院への搬送時間の短縮
短縮があった自治体 ：１０３市町村
上記自治体の人口 ：約１７１万人

資料:道路交通センサス

※救命救急センター:旭川赤十字病院、市立札幌病院、市立函館病院、市立釧路総合病院、北見赤十字病院、帯広厚生病院、札幌医科大学附属病院、手稲渓仁会病院、独立行政法人国立病院機構　北海道医療センター、旭川医科大学病院、砂川市立病院
地方センター病院:帯広厚生病院、北見赤十字病院、市立釧路総合病院、名寄市立総合病院、市立函館病院

【医療】:高規格道路開通による効果(2)

国土交通省

〈血液輸送の速達性確保〉

○血液や血液製剤は、札幌市にある北海道赤十字血液センターから帯広出張所へ毎日搬送
○道東道の開通により速達性･走行性が確保され、安定的な血液輸送が可能に

▼血液・血液製剤の輸送状況

※着色は、帯広出張所の血液供給エリア

【医療】:今後の高規格道路整備により期待される効果

国土交通省

〈血液輸送の安定性向上〉

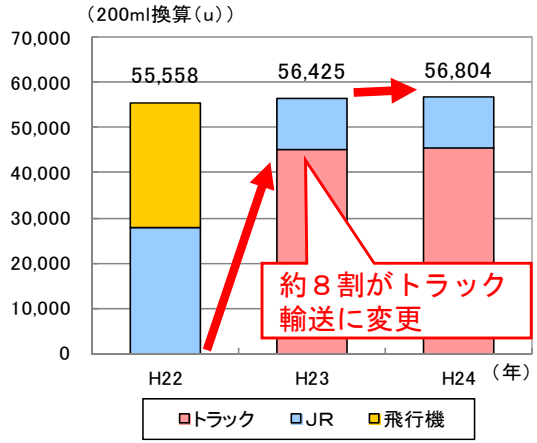
○釧路・根室圏の医療施設で使用する血液は、航空輸送からトラック輸送に転換しており、帯広市を経由して輸送されているが、血液輸送ルートである国道には、急カーブ、急勾配が多数存在しており、速達性及び安定性の高いルートの確保が求められている

○道東道浦幌ー釧路間の整備により、速達性及び安定性の高いルートが確保されることにより、血液輸送の安定性向上が期待される

▼釧路市への血液輸送状況

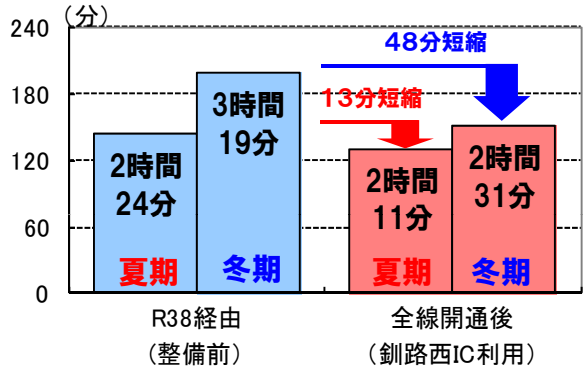
資料：道路台帳

▼釧路・根室圏への交通機関別血液輸送量



資料:血液センターヒアリング（H26）

▼赤十字血液ｾﾝﾀｰ帯広出張所～釧路事業所間の全線開通後所要時間の変化



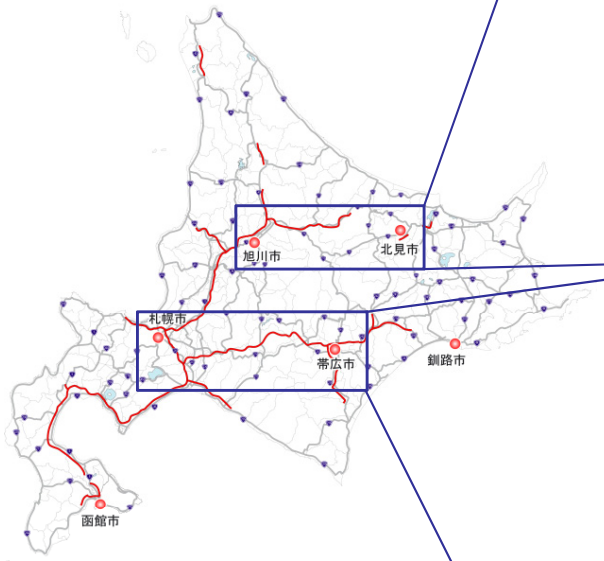
資料:(夏期)H22道路交通センサス、(冬期)H17道路交通センサス

【安全・安心】:高規格道路開通による効果（1）

国土交通省

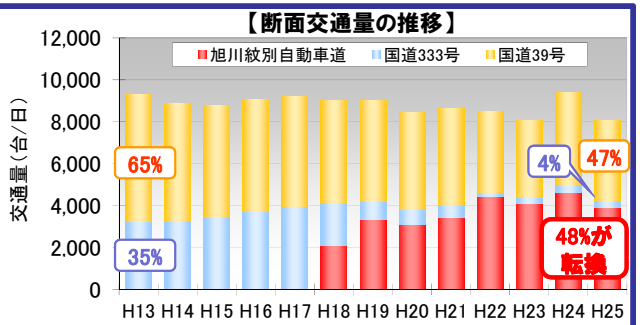
〈都市間交通の安全性確保〉

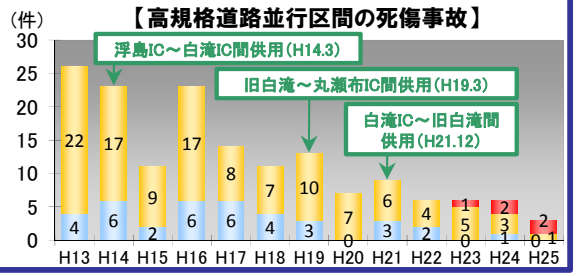
○峠区間を回避することで、並行する一般国道の死傷事故は大幅に減少
○並行する一般国道及び高規格幹線道路を併せた死傷事故も減少し、都市間交通における安全な交通が確保



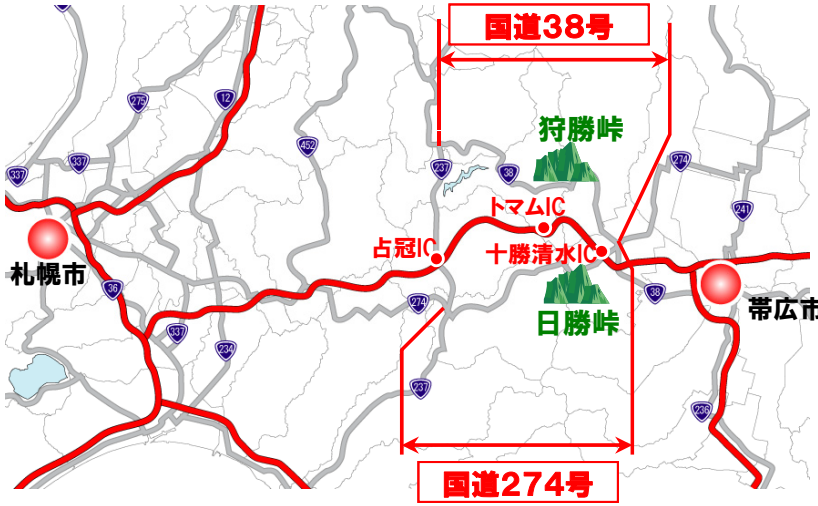
▼旭川紋別自動車道（浮島IC～丸瀬布IC間）並行国道の死傷事故

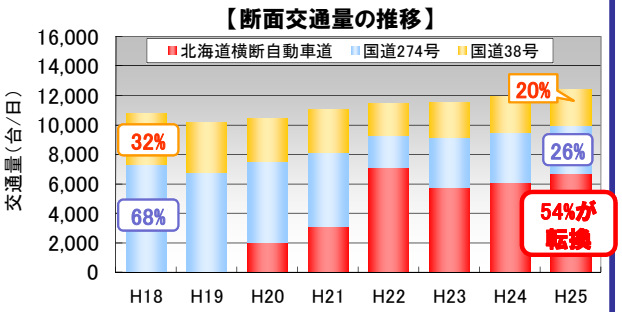
※旧白滝は暫定設置のため、現在は廃止

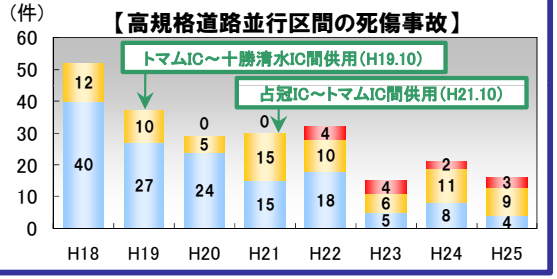




▼道東自動車道（占冠IC～十勝清水IC間）並行国道の死傷事故







資料：（断面交通量）道路交通センサス、北海道開発局調べ
（死傷事故）事故マッチングデータ

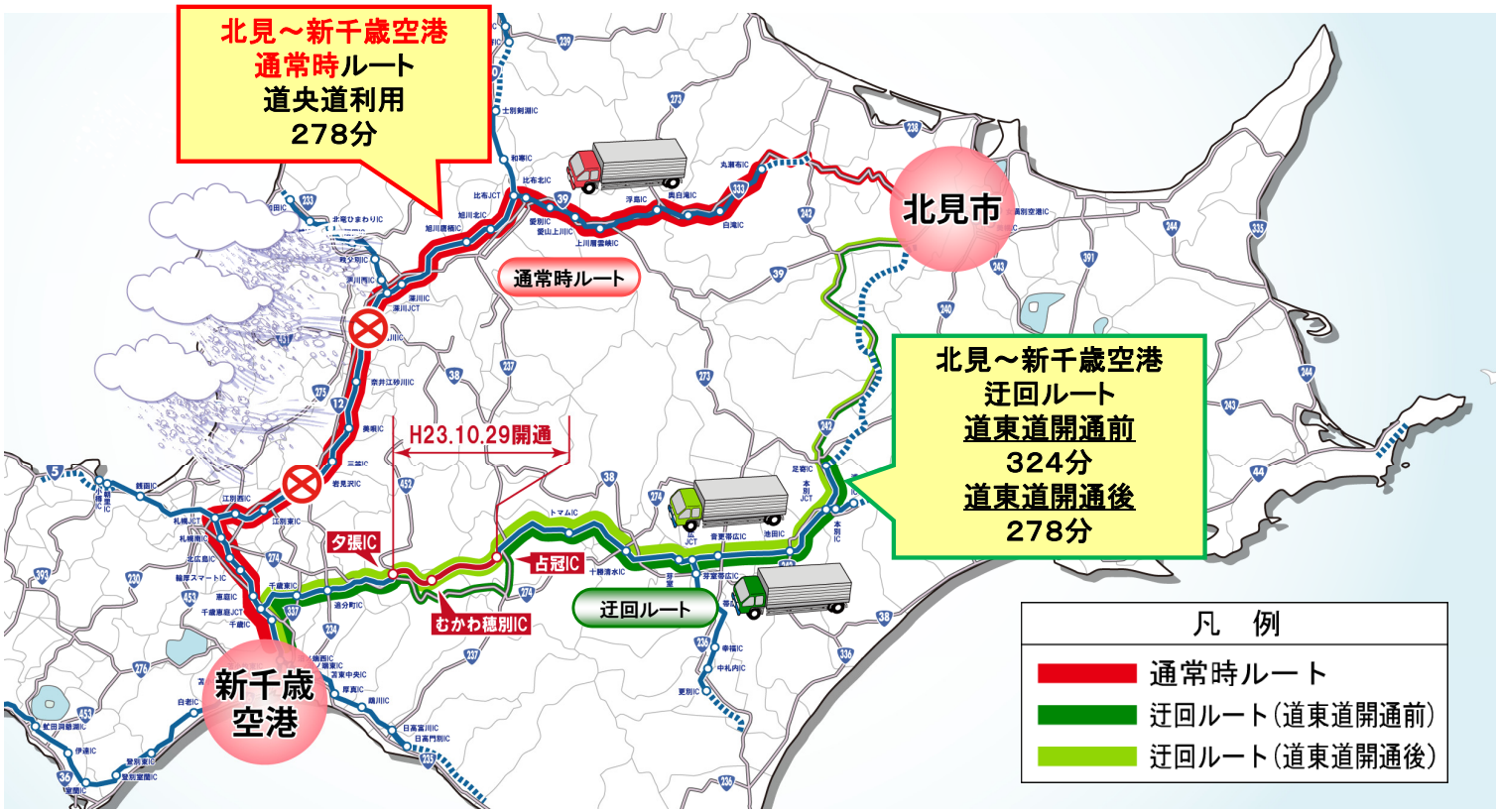
【安全・安心】:高規格道路開通による効果(2)

国土交通省

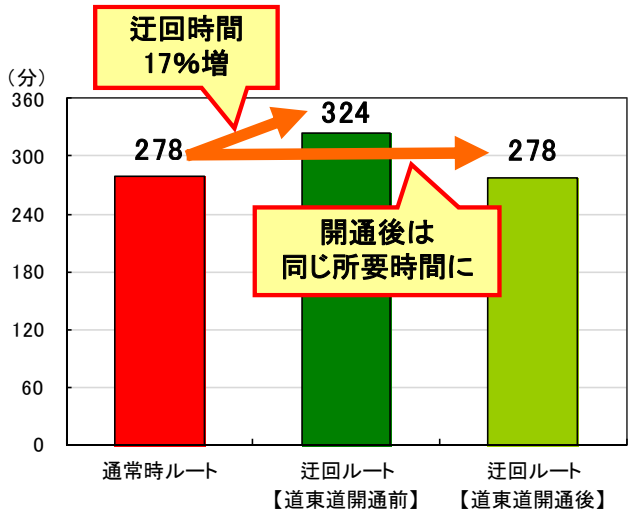
〈代替性の確保〉

○平成24年2月の空知・石狩地域を襲った豪雪では、道央自動車道で通行止めが発生
○道東圏～道央圏の物流ルートでは、道東道が代替ルートとして機能大きく貢献

▼北見圏～道央圏間の物流における通常時及び迂回ルートの状況



▼通常時及び迂回ルートの所要時間



資料:H22道路交通センサス

【ルート別距離】
通常ルート（北見～新千歳空港･道央道利用）：高規格幹線道路 約260km ＋ 一般国道 約80km 計 約340km
迂回ルート（北見～新千歳空港･道東道利用）：道東道開通前 高規格幹線道路 約175km ＋ 一般国道 約175km 計 約350km
道東道開通後 高規格幹線道路 約210km ＋ 一般国道 約110km 計 約320km

【安全・安心】:今後の高規格道路整備により期待される効果

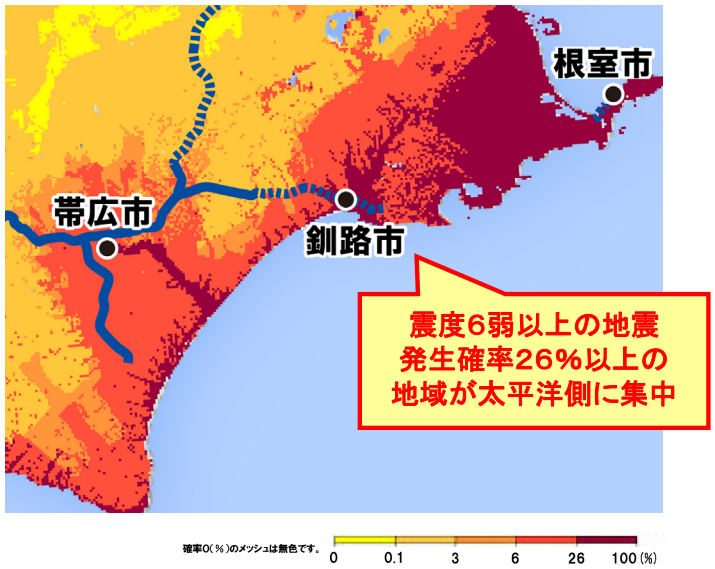
国土交通省

〈災害発生時の緊急輸送ルートの強化〉

○道東は今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる可能性があり、津波浸水による甚大な被害が予想されている地域

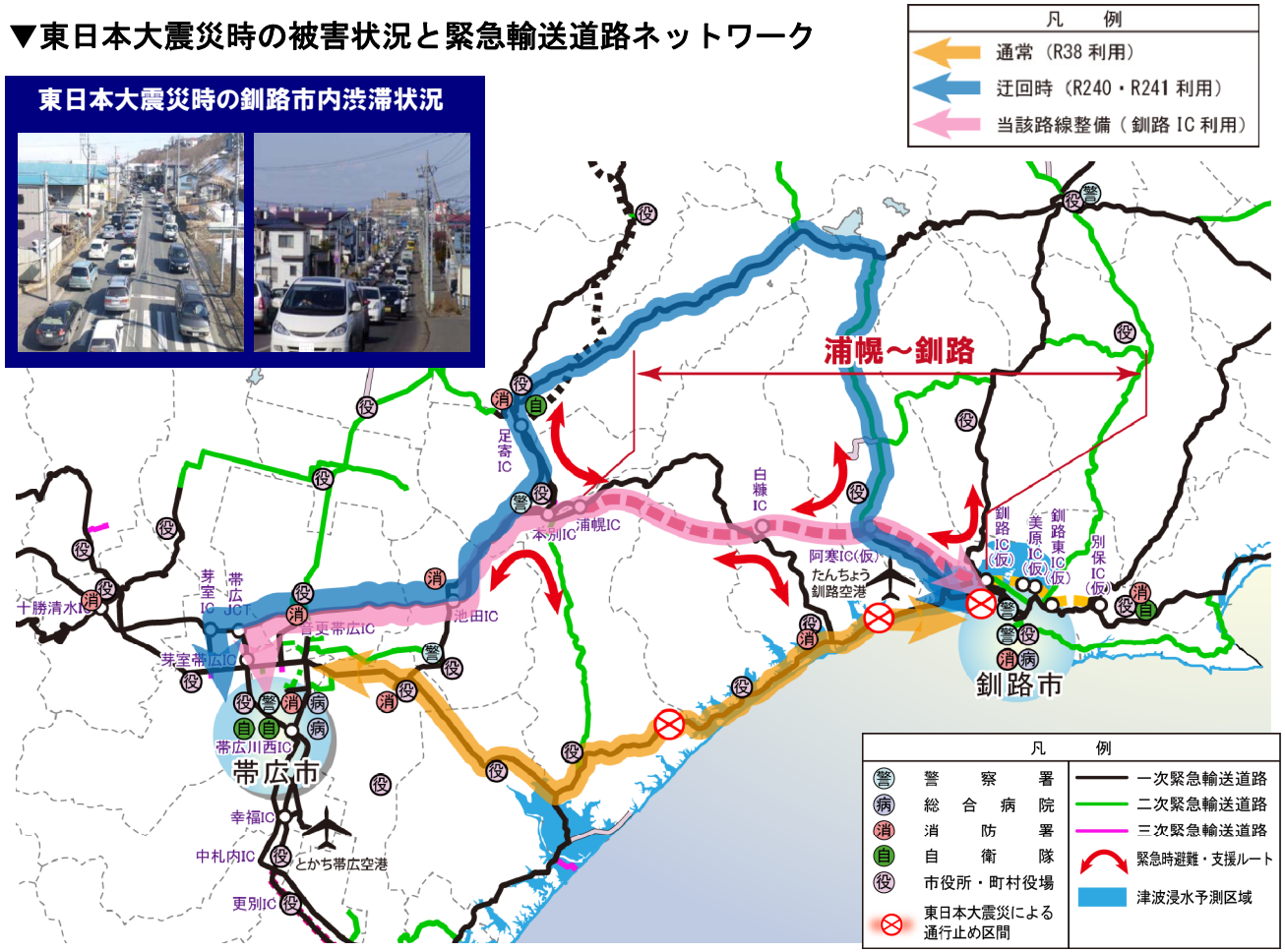
○道東道浦幌～釧路間の整備により、大規模な迂回の回避や津波時の緊急避難道路としての活用や、災害により被災した地域からの迅速な救急搬送や救援物資等の輸送の確実性の向上が期待される

▼30年以内に震度６弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図



資料:NIED 独立行政法人防災科学技術研究所

▼東日本大震災時の被害状況と緊急輸送道路ネットワーク



資料:北海道緊急輸送道路ネットワーク計画書

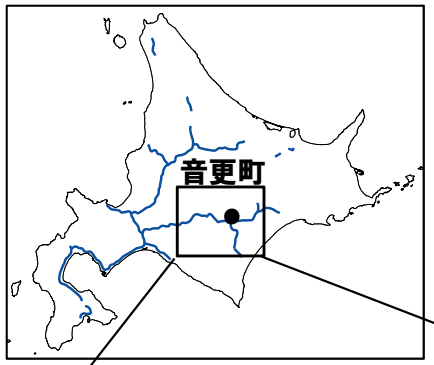
【地域活性化】:高規格道路開通による効果（1）

国土交通省

〈企業誘致・雇用創出〉

○道東自動車道・音更帯広ICに隣接する音更町I.C工業団地への企業分譲数は、平成12年の6社から平成24年には28社へと増加

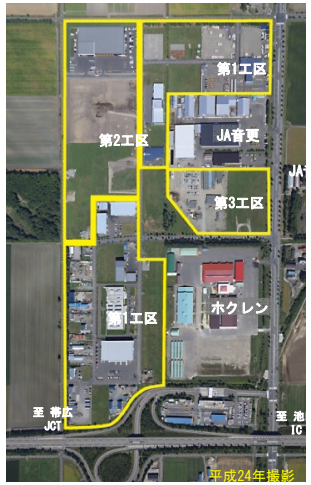
○札幌まで全線開通した平成23年以降、臨床検査薬等の製造会社、小麦粉製粉工場、北海道コカ・コーラボトリング(株)帯広事業所が建設されるなど、地域産業が活性化



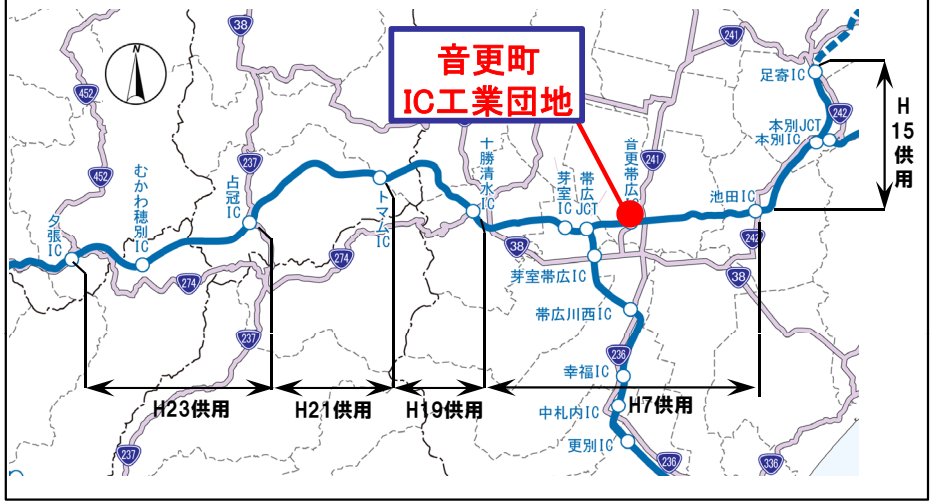
●音更町IC工業団地は、帯広市まで6km、音更市街地より1.6kmと十勝の中心市街地に近いため、利便性が高く、国道241号と北海道横断自動車道音更帯広インターチェンジと接しており、また補助幹線となる道道、町道も整備済みと、交通アクセスには特に優れた立地条件。

H10撮影時（分譲前）

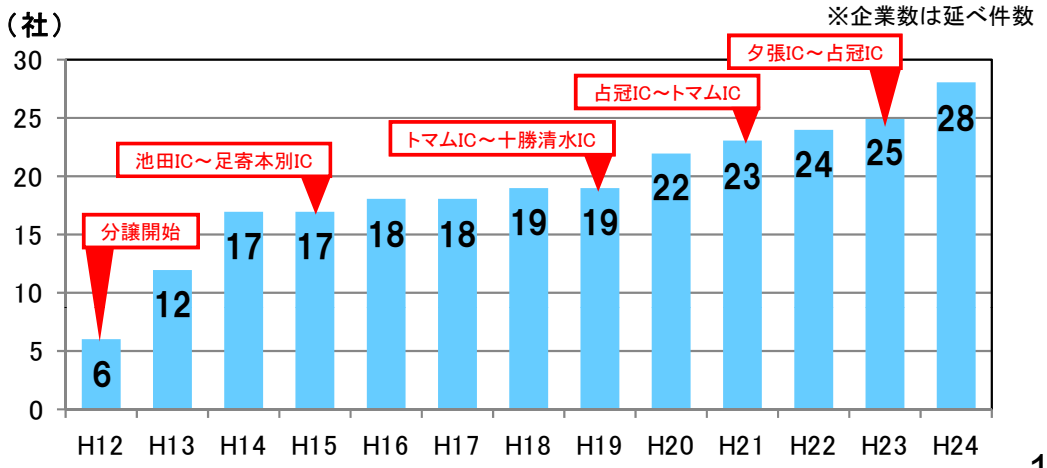
H24撮影時（28社）



▼道東道の供用年次



▼音更町I.C工業団地企業分譲地契約数の推移と道東道開通区間



資料：音更町土地開発公社

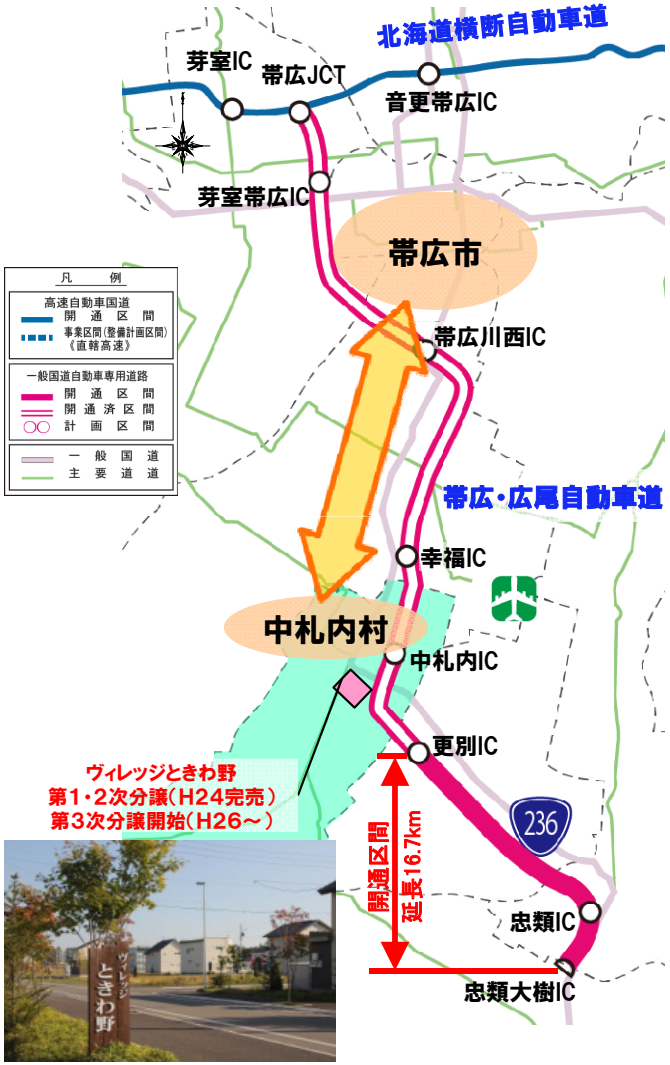
【地域活性化】:高規格道路開通による効果（2）

国土交通省

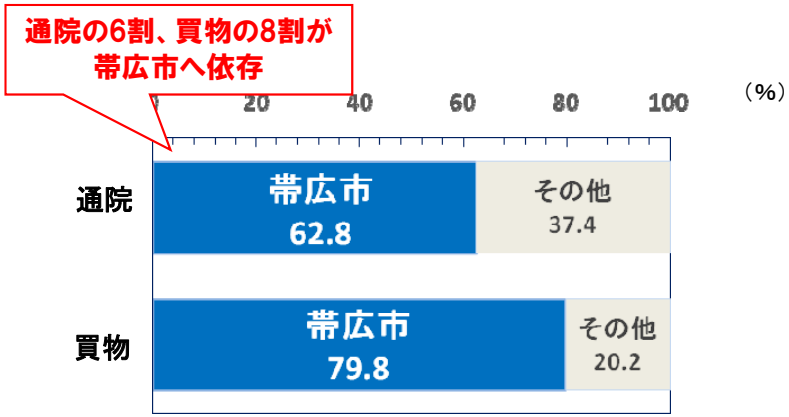
〈定住人口の増加〉

○中札内村は、通院、買い物などの生活行動を帯広市に依存
○中札内村では、定住化を進めるためIC周辺での宅地分譲や子育て支援等を行っており、 帯広・広尾自動車道の整備が進むにつれて定住人口や若者が増加するなど、地域活力の向上に寄与

▼中札内村の住宅分譲状況

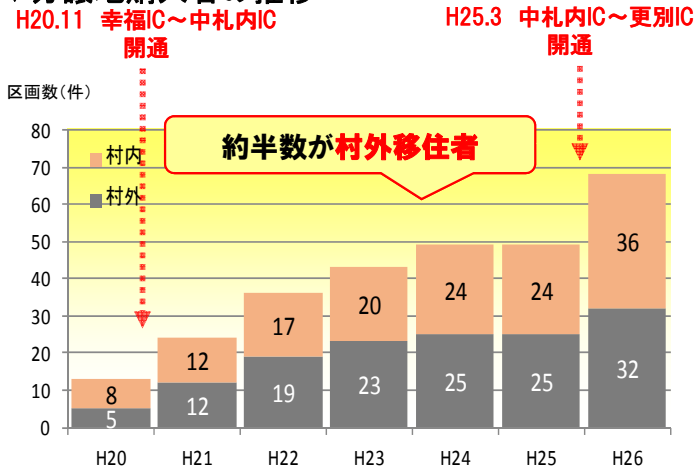


▼中札内村の帯広市への通院・買物動向



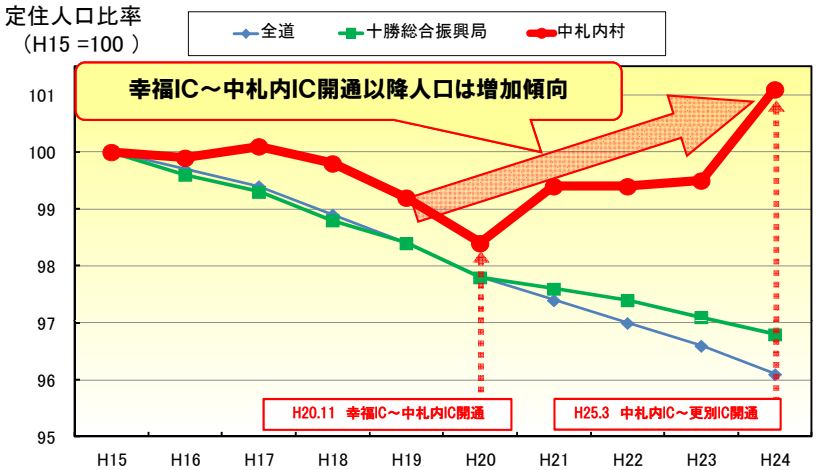
資料：中札内村提供資料（H24.4）、北海道広域商圏動向調査（H21）

▼分譲地購入者の推移



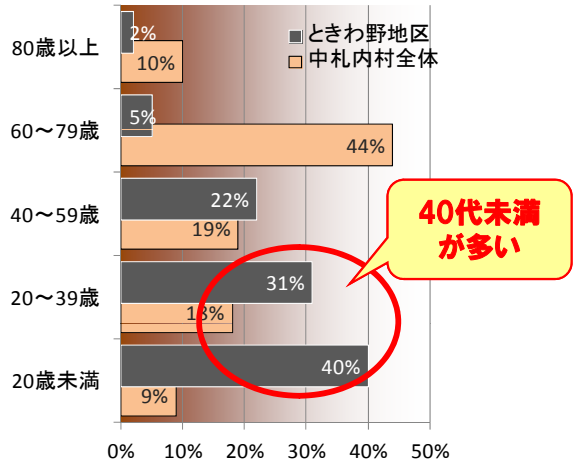
資料：中札内村住民基本台帳(H20～H26)

▼中札内村の人口比率推移



資料：北海道総合政策部住民基本台帳 （H14.4～H24.3）

▼分譲地購入者の年齢分布



資料：中札内村住民基本台帳(H26)